

## 第2章

### ツインクルコンソーシアム会議

## 1. ツインクルコンソーシアムメンバー

本プログラムに参加を表明している ASEAN 諸国の連携大学は、インドネシア・タイ・ベトナム・カンボジア・シンガポール、いずれも各地域のトップ校である。さらにこれら連携大学とは順次 MOA(Memorandum of Agreement)の締結を進め、プログラム実施の安定化に努めている。また図 1 に示す通り、12 の連携大学に加え 30 の高校がコンソーシアムメンバーとして加盟している。

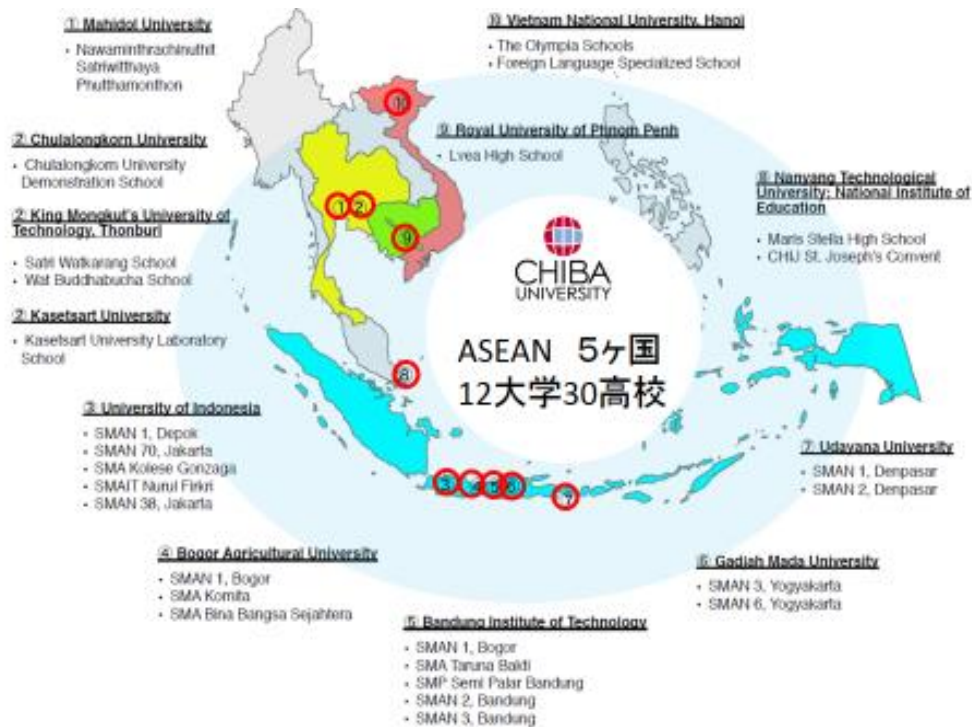


図 1 コンソーシアムメンバー

## 2. ツインクルコンソーシアム全体会議

平成 26 年度は、2015 年 3 月 20・21 日に、コンソーシアムメンバーの各機関から代表を招聘して全体会議を開催した。20 日午前の会議においては、今年度の成果と助成期間の半分を終えての成果と課題についてのフィードバックを本学及び各機関から行い、その内容を踏まえ、21 日午前に今後の展望について議論した (図 2)。



図 2 20 日午前の会議にてフィードバックを踏まえた今後への提案

## 2. ツインクルコンソーシアム個別会議

各連携大学・高校とは、全体会議に加え、本学教職員による訪問・連携機関関係者の招聘・TV会議システムなど様々な手段で個別の会議を設け、細かな調整を進めている。その内容は、各機関の実情にあわせ、学生の生活面における支援や、プログラム内容の調整など多岐にわたっている。

また20日午後、各大学・高校との個別会議を設け、コンソーシアムメンバーからの個別の意見のフィードバックや本学及び現地での活動の詳細に関する議論を行った（図3）。ASEAN諸国は、各国の実情のみならず、各都市間での文化や社会背景の差異が大きいため、このような細やかな議論がプログラムの充実に欠かせないものとなっている。



図3 20日午後の個別会議 プログラムの詳細についての確認

## 4 ツインクルコンソーシアムからの提言

ツインクルコンソーシアム参加の5カ国のメンバーが、国や大学等の違いを超えて、今後も発展的に活動できるように、コンソーシアム会議参加メンバーを6グループに分け、議論、交流できるワークショップを実施した（図4、5、6）。議論のテーマは、ツインクルプログラムの課題と成果であった。議論の後、グループごとに話し合われた内容を発表し合った。

各グループからの提言として、学生派遣と受け入れの日程の調整、単位の相互認定の促進、千葉大学学生派遣時の文化交流数の増加、ツインクルコンソーシアム加盟国の増加、加盟大学間のネットワークの構築、派遣学生数と派遣日数の増加、コミュニティサービスの実施など多岐にわたり、本プログラムの発展は多方面に可能であることが確認された。



図4・5・6 今後の展望について、国・大学を越え活発な議論がすすめられた